

「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立根本名小学校】

平成29年4月18日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

(1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

(2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）と本校児童の状況

(1) 教科の調査結果から

国語A（知識）	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	B
国語B（活用）	基礎的な知識・技能を活用する問題	B
算数A（知識）	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	B
算数B（活用）	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

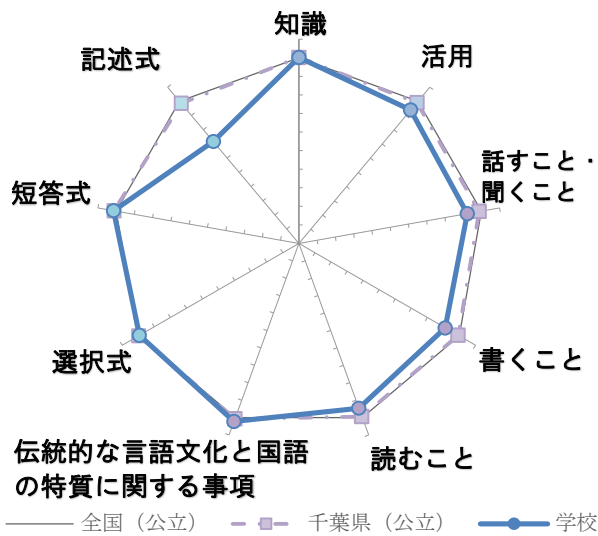
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

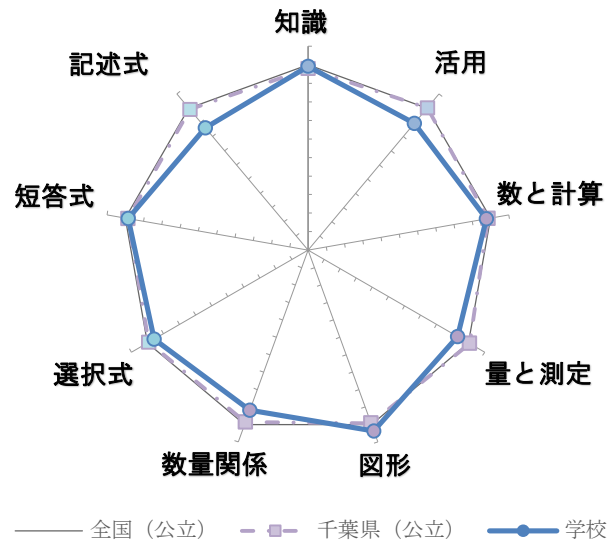
C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) レーダーチャート

<国語>



<算数>



3 結果分析

(1) 学習面について

<国語A>

- ・全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- ・「話すこと・聞くこと」「読む能力」の領域が全国平均より下回っています。話を聞き、共通点や相違点を整理しながら話し合う点に課題があるようです。
- ・「漢字の読み・書き」については、全国平均とほぼ同じ正答率になりました。ドリル学習での定着が図られているようです。

<国語B>

- ・全国平均よりやや下回っています。
- ・「書くこと」の領域が全国平均より下回っています。また、「記述式」の問題形式について、全国平均を大きく下回っています。設問の条件に合った解答文を書くことに課題があるようです。

<算数A>

- ・全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- ・「数量関係」の領域が全国平均より下回っています。加法と乗法の混合した整数と小数の計算や、□を用いた計算に課題があるようです。

<算数B>

- ・全国平均よりやや下回っています。
- ・「量と測定」の領域が全国平均よりやや下回っています。平均を求めたり、活用したりする問題に課題があるようです。

(2) 児童質問紙調査から

<生活の中>

(11) 授業で学んだことを、他の学習や普段の生活に生かしている。

(49) 学校の決まりを守っている。

(50) 友達との約束を守っている。

<授業を受ける態度>

(83) 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。

(87) 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

<気持ちのコントロール>

(29) 自分で計画を立てて勉強をしている。

(52) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

以上の項目で、学力との優位な相関が見られました。

学習したことを生活の中で生かすことができている子や、学校や友達との決まり（約束）を守って生活をしている子たちは、学力が高いという結果が出ました。また、授業を受ける態度について、話をよく聞き、ノートを見やすく書いている子たちも同様に学力が高かったようです。

自分で勉強の計画を立てたり、いじめを許さない気持ちをもっていたりする子たちについても、自分の気持ちをコントロールし、学習に対して意欲的に取り組むことにより、学力へのよい影響があるようです。

4 まとめ

○国語科の「A問題」では、「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う」問題が全国平均を大きく下回りました。様々な話し合いの場面において、児童一人一人がそれぞれの役割について学ぶことができるように、意図的、計画的に機会を設定していきます。「B問題」では、「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」問題が全国平均を大きく下回りました。叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる際、その叙述を見つけるためには、場面の展開に沿って、登場人物の言動や心情の変化を捉えて読むよう指導していきます。

○算数科の「A問題」では、「未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すことができる」問題が全国平均を大きく下回りました。場面を的確に捉えることができるように、図を用いたり、□に具体的な数値を当てはめたりして考察する活動を設定していきます。「B問題」では、「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができる」問題が全国平均を大きく下回りました。日常生活や他教科での学習場面で平均を求める際、平均を求める式の意味を場面や状況と関連づけて考察し、適切に平均を求めることができるように指導していきます。

○本校では、朝読書の時間を毎日設定し、子どもたちの読書習慣が身につくようにしています。しかし、質問紙の結果を見ると、家庭での読書量が全国平均を下回る結果となりました。図書館の利用に関しても低い結果となっています。児童の読書習慣の改善に向けてご家庭でもご協力をお願いします。